

地域の居場所づくりとは ～「子ども食堂」を通して考える～

【第 1 回】 <はちおうじ子ども食堂 事例紹介> (10 月 22 日実施)

「子ども食堂」とは、子どものたちの貧困や生活の多様化から、家庭や地域の中で孤立する子どもたちを「食」の面から地域で支えようと始まった取り組みです。今回は碓井健寛氏（創価大学経済学部准教授）を講師としてお迎えし、「はちおうじ子ども食堂」の学生スタッフ、六華正治氏と千葉治美氏とともに立ち上げの経緯と運営面での気づきや課題について語っていただきました。

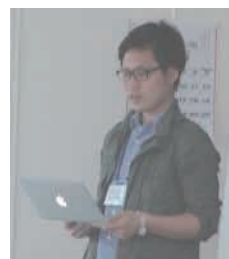
八王子で学生によって立ち上げられた子ども食堂は、食支援、居場所・地域づくりを目的に月 2 回開催しています。年齢や所得に関わらず誰でも参加できます。生きづらさを感じている子どもや家庭の人たちに心地よく過ごせる場所を提供するために、学

生たちは支援する側・される側という役割が固定されないように工夫をして活動しています。開店日に向けての準備、メニュー決め、野菜の注文、調理方法や収支についても詳しいお話がありました。参加者の方からは活発な質問があり、これから活動したい方々にとって参考となる話が聞けました。

(参加者 27 名)



【第 2 回】 <あつぎえんぴつの会 事例紹介> (11 月 5 日実施)



今回の講座では、碓井健寛氏と「あつぎえんぴつの会」の学生スタッフの新垣真一朗さんを講師として迎え、「居場所」の観点から自主夜間中学の事例を紹介していただきました。

夜間中学とは、公立の中学校の夜間学級のことで、戦後の混乱期の中で義務教育を修了できなかった人や、様々な理由から日本で生活を始めることになった外国籍の人など、多様な背景を持つ人たちが学んでいます。最近では、不登校などの理由で十分に通うことができなかつた人たちの「学び直しの場」とし

での役割も期待されるようになりました。公立の夜間中学は神奈川県内に 2 校と少なく、長い間学びの場を求めている方が多いのも現状です。

「あつぎえんぴつの会」は、学びたいけど学べなかつた人たちの広い受け皿になれたらと、ボランティアによって運営される自主夜間中学です。

講座では、台湾からの引揚げ、不登校、外国籍といった様々な背景を持つ生徒さんのライフストーリーが紹介されました。スタッフには大学生も加わり、勉強を教える一方で、生徒から社会や人生について豊富な経験を聞くなど、共に学び合う場となっているそうです。(参加者 11 名)

【第 3 回】 <ここ、あいてますよ。ディスパーニブルな場をつくる> (11 月 20 日実施)

最終回では、「つるみえんぴつの会」の学生スタッフの山根治美さん、「夜の児童館」の学生スタッフの芳井ひかりさんが事例発表を行い、最後に碓井氏にまとめを行っていただきました。

「つるみえんぴつの会」は、横浜市鶴見区で外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援を行っています。2 箇所の会場で週 1 回活動しており、様々な母国語の小中高の子どもたちが通っています。代表の三階泰子さんからは、ぶれない姿勢で粘り強く活動を続けることが大切であるとのことでした。

「夜の児童館」は NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワークの活動の一つで、子どもの食と暮らしをサポートする居場所です。同法人主催の「子ども食堂」は現在 4 箇所で開催。誰でも参加でき、人と

人がつながる OPEN な場所として機能しています。

一方、「夜の児童館」はスタッフと利用メンバーは固定され、皆が顔見知りのアットホームな居場所となっており、目の前の一人ひとりを大切にしている取組を行っています。

事例で紹介された居場所は、市民が協力して社会的課題を解決していく取組の一環ともいえます。

事例紹介を通して見えてきたことは、手を貸す側と援助を必要とする側のニーズが合致すること、生きづらさを抱える人たちの目線に合わせて柔軟に共感できる人がスタッフに加わることなどでした。

(参加者 14 名)



<<<活躍中の登録団体>>>

誰もが集える居場所づくりをめざして

<ふくふく>

輝き市民サポートセンターの会議室をお借りして、毎月一回「ふくカフェ」を開いています。

誰もが気軽につどえる「場」、思い思いに過ごしながら楽しみを見つけ、つながりを感じられる「場」でありたいと考えます。毎回、おしゃべりに花を咲かせたり、小物づくりを楽しんだりしています。

「気兼ねなく過ごせるのがいいね」との声をいただいたり、8月に開催した「市民活動のひろば」で出会った人たちが、「どんなところかしら」と立寄ってもらえました。嬉しい気持ちとともに、ゆるゆるとつながりが広がるのを実感しています。

活動の様子と今後の予定



今後の予定

2016 年 12 月 8 日 (木) 13 時～15 時

2017 年 1 月 17 日 (火) 13 時～15 時

申込み・参加費は不要、開催時間内は出入り自由です。お茶とお菓子を用意して、みなさんをお待ちしています。

生き生きした毎日のために

<NPO 法人リビングバリュー推進協会>

私達は、バリュー(価値)教育を行っています。「価値教育」という言葉にはなじみがないかもしれませんが、世界中で積極的に行われています。

『愛、平和、尊重、協力、幸福、正直、簡素、責任、謙虚、寛容、自由等といった「価値」を取り上げ、その価値を実生活に活用し、毎日を満ち足りたものにする。』



すなわち、リビング(生き生きとした)バリュー(価値)です。

今後は、高齢者向けプログラムも充実させていきます。歳を重ねると、お世話になることも多くなりますが、今まで築いてきた価値を再認識することによって、家族や社会に十分に貢献できるはずですよ。

生き生きとした人生を送る場をつくるために一緒にプログラムを体験してみませんか。

詳しくは、URL: <http://livingvalues.jp/> をご覧ください。



福生の玉川上水沿いを歩いてみよう

<玉川上水遊歩道を考える会>

玉川上水遊歩道を考える会は、2004 年 2 月に発足しました。現在 60 人ほどで活動し、都や市へ遊歩道整備などを要望しています。現状を知らせる展示や、定期的な散策イベントも開いています。

緑豊かな玉川上水沿いを歩いて魅力を感じてもらおうと、市内の散策ルートマップを作製しました。

みずくらいど公園(熊川)入口にマップを入れた専用ボックスを置き、来た方が自由に取れるようにしています。市内を流れる玉川上水の半分には遊歩道がありません。玉川上水を歩いてきた人が迷わないよう独自のルートを設定し、マップにすることで、現状を市民に認識してもらい、整備を促す思いもあります。

玉川上水遊歩道を考える会としては、福生市民でも、市外から来た人に遊歩道への道を案内できない人は多いので、マップを手に市内の上水を歩いてもらい、遊歩道整備の機運が高まることを望んでいます。



みずくらいど公園付近の玉川上水遊歩道